

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170100739		
法人名	社会福祉法人南静会		
事業所名	グループホーム西円山の丘		
所在地	北海道札幌市中央区円山西町4丁目3番21号 (電話) 011-640-2200 (代表)		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月28日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	22人	常勤 19人, 非常勤 3人, 常勤換算	18.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての 2～4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	16,840～26,840 円	
敷金	有 (65,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (4月21日現在)

利用者人数	27名	男性	1名	女性	26名
要介護1	4名	要介護2	11名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	78歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人溪仁会西円山病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人敷地内には、病院・老健施設・老人ホーム・ケアハウス・グループホームが、木々に囲まれた自然の中に並んで建っており、各事業所が建物内部の連絡通路で繋がっている。札幌市を一望できる4階建ての当事業所内部は、明るく広々としている。職員は、利用者に対し穏やかに優しく接しており、落ち着いた家庭の雰囲気を出している。管理者・職員は、常に質の高いケアを目指し、熱意をもって事業所の運営に携わっている。開設以来の職員も多く、職員間のコミュニケーションも良好である。また、法人内の連携と協力を、利用者の生活の質に反映している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	管理者・職員は、自己評価・外部評価の重要性を認識しており、常に課題を掲げて話し合いを重ねるなど、熱意をもって取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は、職員全員の話し合いと検討で行っており、ケアの質向上に取り組み、利用者の日々の生活に反映している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、定期的に運営推進会議を開いており、事業所の取り組み状況や、自己評価・外部評価の内容を報告している。利用者家族の参加が多く、また、地域住民も活発な意見を出している。運営推進会議を通して、町内会との連携も深まっている。会議録はファイルしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	職員は、家族が事業所来訪時に、気楽に意見・要望・苦情を話せるように、雰囲気づくりに配慮している。重要事項説明書には、苦情申し立て窓口の外部機関や、第三者委員も明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	事業所は、町内会に加入し、利用者の力量に応じて、地域の行事に職員と共に参加している。また、地域の小学校との交流もあり、学習発表会に招かれたり、小学生が事業所を訪問し、利用者と共に昔遊びをしたり、利用者への質問コーナーを設けて楽しむなどしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通理念を事業所の理念として掲げ、ケアの質向上を目標に、地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支援している。しかし、事業所独自の理念を、作り上げるまでには至っていない。	○	法人の理念を基に、地域の人々と共に、家庭的な暮らしが出来ることを盛り込んだ、やさしく解りやすい文言の独自の理念を検討し、フロアーの見やすい所に掲示することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度始めに、法人の共通理念を職員全体で振り返り、年度方針を決めている。さらに、毎月、独自目標をユニットごとに設定し、具体的な取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事にも参加している。盆踊りに参加したり、地域の小学校から学習発表会に招かれたり、小学生の訪問を受け、利用者と昔遊びをしたり子供たちからの質問コーナーを設けるなど、地域の人々との交流を楽しんでいる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で話し合い検討して、管理者がまとめている。自己評価・外部評価は、ファイルして事業所の見やすい所に掲示している。評価で明らかになった課題については、ケアの質向上に向けて、管理者・職員一丸となって取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、定期的開催している。利用者家族の参加人数も多く、事業所からの報告のほか、活発な意見交換を行っている。会議内容は、全職員に報告し検討を図り、サービスに活かす取り組みをしている。事業所の盆踊り参加の様子が、地域の新聞に掲載されるなど、地域との交流も深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、介護保険に関する相談や、運営推進会議の報告などで、市町村担当者の元に足を運び、確認・調整をするなどして、積極的な連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の事業所来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について、個々に詳しく伝えるよう努力している。また、必要に応じて、電話連絡も密にしている。事業所便りは、各ユニットで2ヶ月毎に発行し、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が意見・要望・苦情等を気軽に伝えられるよう、コミュニケーションを大切にし、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。重要事項説明書には、苦情申し立て窓口の外部機関や、第三者委員も明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者との馴染みの関係を大切にし、職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努力をしている。古い職員は新人職員をフォローし、利用者へのダメージを防いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中に、職員の研修を位置づけ、法人内外の研修に積極的に参加し、全職員で内容の共有を図っている。今年度の内部研修は、項目ごとに3回の研修に分け、年間で全ての研修を受講できる体制を取っている。また、勉強会の講師も、職員が交代で行い、研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、認知症高齢者グループホーム協議会や、区の管理者会議に参加し、同業者との交流や情報交換を図っている。区の管理者会議では、年3回のスタッフ研修も行われ、各事業所から4～5名ずつが参加しており、同業者との交流の機会となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前には、本人家族に事業所を見学してもらい、よく話し合っ、安心して納得のいく利用開始となるよう配慮している。また状況に応じて、家庭訪問もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の側に寄り添うことを大切にし、一人ひとりの希望に沿った対応を心がけている。利用者の昔話の中から、生活の知恵を教わることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりとの関わりの中で、言葉や表情、今までの習慣などから、その人の思いや意向をくみ取り、心を添わせた対応に努めている。また、家族・医師・関係スタッフからも、利用者の意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員による利用者の居室担当制を導入し、利用者・家族の要望や、日々の生活の中での気づき、状態の変化などを細かく把握し、ケア会議でカンファレンスを行って、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行うが、月1回のケア会議でも利用者の状況確認をし、変化のある場合には、その都度介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し、医療連携体制を実施している、また、家族の状況に応じて、通院の送迎や、送迎途中に利用者の希望で自宅に寄る事もあるなど、柔軟な対応を心がけている。利用者と家族が一緒のドライブを支援したこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する、かかりつけの病院がある場合は、受診を支援する体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時には、重度化や終末期に向けた指針を示し、できるだけ早い段階から、本人や家族の意向を最優先に考えた対応を話し合う方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わる書類等は、施錠できる書庫に保管している。職員は、利用者一人ひとりの性格や状況を把握し、誇りやプライバシーに配慮した言葉がけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって決まったスケジュールがある場合も、利用者の希望に応じて買物に付き添ったり、入浴の希望にも臨機応変に対応するなど、一人ひとりの思いに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の指導を受け、季節感のあるバランスのよい食事を提供している。茶碗や湯のみは、利用者個々のものを使い、また、食事の後片づけや茶碗拭きなど、利用者のできる力に合わせて、職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、基本的には週2回の入浴を支援している。夜間の入浴は希望者がいない。入浴嫌いの利用者には、声かけの工夫や足浴・シャワー浴の対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや持てる力に応じて、趣味活動や、できることを活かした役割を持つよう支援をしている。ボランティアの指導で、月2回書道をしたり、法人内病院の詩吟教室に通うなど、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内病院の売店に出かけて買物をしたり、近隣の大きな公園での散歩や、動物園・花見・外食へ出かけるなど、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関のドアは、防犯上オートロックとなっているが、内側からは自由に外に出ることができる。各フロアのエレベーターにはチャイムを付け、出入りが感知できるようになっている。居室のドアは防災ドアで、開閉時に音がすることもあり、ラップ芯を工夫して作ったドアストッパーを活用し、夜間は安全確認ができるよう30センチ程開けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中・夜間を想定し、隣接する法人内施設と連携して、利用者と共に防災訓練を行っている。運営推進会議の委員を通して、地域住民への働きかけも検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週、法人内の管理栄養士による、食事献立の確認を行っている。栄養バランス・水分量など、一人ひとりの状態に応じた摂取量の把握もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間の東側は、一面総ガラス張りで、眼下には緑の木々の間から札幌市街が眺められる。大きなブラインドで陽射しの調節をし、床暖房・空調設備も完備している。ゆったりとしたソファの前にはテレビがあり、一人になれる空間も確保しており、利用者がのんびりとくつろぐ姿がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、トイレと小さな洗面台を設置しており、洗顔や歯磨きが出来る。利用者は、使い慣れた家具などを持ち込み、家族の写真を飾ったり自作の手芸品を置き、また、個々の暖簾を掛けるなどして、その人らしく過ごせる居室となっている。居室にて、電話を使っている利用者もいる。		

※  は、重点項目。